



もてなしの心で語る わが街

えな自慢

えな自慢
13
えな人

山本芳翠（やまもとほうすい）

日本洋画の父



山本芳翠。「山本芳翠の世界展図録」朝日新聞名古屋本社会行（1993）から転写

ひとくちメモ

山本芳翠顕彰会は、明知鉄道沿線の野志駅近くにある生家の前に、案内看板を設置。10月16日、除幕式が行われた。また来年の2010（平成22）年は、山本芳翠生誕160年で、各種イベントを予定。

1850（嘉永3）年7月、現在の明智町で生まれた洋画家。伊藤博文などの肖像画が著名で、日本洋画の父と呼ばれる。幼少から絵が好きで、寺子屋安住寺で象先和尚に学んだ。15歳のとき北斎漫画を手に入れて感銘し、絵の道を志した。1878（明治11）年、パリ万国博覧会を機にフランスに留学、絵画技法を学んだ。1887（明治20）年に帰国し、版画家合田清とともに画塾「生巧館」を主宰。1894（明治27）年に黒田清輝がフランスから帰国すると、黒田が結成した白馬会に参加した。代表作に「裸婦」（1880年ころ）、「灯りを持つ乙女」（1892年ころ）、「浦島図」（1895年）がある。アカデミックな画風で、フランスで本格的に習得した画技を黒田に先立って日本に伝え、多くの洋画家を育てた功績は大きい。1906（明治39）年、56歳で没。

えな自慢

14

えな食

細寒天

全国シェア8割



寒天干しの風景

ひとくちメモ

昔は、稲作農家の冬の仕事として作られていた。稲を収穫した後、冬の田んぼでは、雪が降っていないのに、寒天で真っ白になるほど生産されていたという。

鉄分や食物繊維を、たっぷり含んだノンカロリーの健康食品。山岡町は、寒天作りに適した場所と言われ、細寒天の生産量は日本一で、全国シェアは8割を誇る。

天草を煮詰めて出来る、ところてんを細長く切り、ロジと呼ばれる露天の棚に、突き出して並べて干す。山岡町は冬の間、夜は零下5度、昼は10度を繰り返す、適度な日照も得られる気候。これは寒天が夜は凍り、昼は溶け始め徐々に水分が抜けていくのに最適なのだという。地元では、細寒天の良さを引き立たせた寒天料理の数々を味わうことができ、特にお薦めが寒天ラーメン。あっさりとした、のど越しが病みつきになる。



寒天ラーメンと製品となった細寒天の束

次号は12月15日号と
1月1日号の合併号
発行日は12月21日(月)です

広報えな No.118
2009年(平成21年)
12月1日発行

発行 恵那市役所 / 編集 企画課広報広聴係
岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1 ☎26-2111 / ☎25-6150
<http://www.city.ena.lg.jp/> ✉info@city.ena.lg.jp

『広報えな』12月1日号、
1部当たりの印刷経費は
約11.3円(税込み)です。



恵那市安心安全メール配信システム
登録用QRコード
問い合わせ 防災対策課(内線317)

『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。



この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい大豆油を使用したインキで印刷されています。